

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：相談支援及び情報提供

※赤塗：コア指標

#	取り組み概要	アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
相談支援について						
31101	【拠点病院等】がん相談支援センターの認知度向上及びその役割の理解の促進のため、地域の関係機関等と連携して、自施設に連携していない者も含む患者やその家族等への適切なタイミングでの認知に引き続き取り組む。また、相談支援体制へのアクセスの向上を向上させるため、オンライン等を活用した体制整備を進める	がん相談支援センターでの自施設・他施設からの新規相談件数（全国の拠点病院等での総数）	328,392	353,988		A
31102	相談支援の質を担保するため、関係団体等と連携し、がん相談支援に係る研修等に引き続き取り組む	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	3,931	3,392		C
31103	上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	上記の内、フォローアップ研修を受講したがん相談支援センターの相談員の人数	1,250	1,344		A
-	持続可能な相談支援体制の在り方等について検討	あり方の検討段階のため指標設定無し（審議に検討を進めること）				
31104	拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する。併せて、相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方向について検討	拠点病院等1施設あたりの連携している患者団体の数	3.3	3.6		A
31105	相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組みについても検討	拠点病院等1施設あたりの体験を語り合う場の開催数	8.1	15.9		A

#	取り組み概要	アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
情報提供について						
-	ニーズや課題等の把握を進め、「情報の均てん化」に向けた適切な情報提供の在り方について検討	あり方の検討段階のため指標設定無し（審議に検討を進めること）				
31201	引き続き、国立がん研究センターや関係団体等と連携して、がんに関する正しい情報の提供及び理解の促進に取り組む	がん情報サービスにアクセスした件数	51,646,076	41,643,293		C
31202		がん情報サービスにおけるコンテンツ更新数	80.3/年（241）	84.5/年（169）		A
31203	障害等により情報取得や意思疎通に配慮が必要な人や、日本語を母国語としない人への情報提供を適切に行うことで医療へのアクセスを確保するために、現状及び課題等を把握し、情報提供体制の在り方について検討	がん情報サービスにおける点字資料	158コンテンツ	185コンテンツ		A
		音声資料数	57.3コンテンツ/年（172コンテンツ）	46.5コンテンツ/年（93コンテンツ）		C
		資料の更新数	点字の電子データを蓄える環境にないため	点字の電子データを蓄える環境にないため		D

#	中間アウトカム	中間アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
311201	がん相談支援センターの認知度	がん相談支援センターについて知っているがん患者の割合（成人）	66.4%	55.1%		C
		がん相談支援センターについて知っているがん患者の割合（小児）	66.4%	-		D
311202	がん相談支援センターの一般の人の認知度	治療法や病院についてがん相談支援センターで情報入手しようと思う人の割合	43.8%	-		D
311203	がんと診断されてから相談することができること	がんと診断されてから病状や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	76.3%	60.6%		C
311204	ピアサポーターの認知度	ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	27.3%	15.4%		C

#	中間アウトカム	中間アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
312201	がん情報サービスの一般の人の認知度	治療法や病院についてがん情報サービスで情報入手しようと思う人の割合	22.8%	-		D
312202	探しているがんの情報にたどり着けること	がん情報サービスにアクセスし、探していた情報にたどり着くことができた人の割合	87.1%	82.1%		C
312203	がんと診断されてから相談することができること	がんと診断されてから病状や療養生活について相談できたと感じるがん患者の割合	76.3%	60.6%		C

#	分野別アウトカム	分野別アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
300001	がん患者が、相談を利用し、役立ったと思えること	がん相談支援センターを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	73.0%	72.4%		C
300002		ピアサポーターを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	73.6%	70.4%		C
300003		がん患者の家族が、悩みや負担を相談できると感じているがん患者・家族の割合	47.7%	44.1%		C

#	分野別アウトカム	分野別アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
300004	がん患者が、治療に関する十分な情報を得ることができること	治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合 成人	75.0%	88.5%		A
300005		治療決定までに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合 小児	74.4%	-		D
300006	国民が、がんに対して正しい認識を持っていること	がんの新しい治療法に関する情報の中には、十分な科学的根拠がなく、注意を要するものがあると思う人の割合	90.1%	-		D

#	最終アウトカム	最終アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
000010	全てのがん患者及びその家族の苦悩の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	70.5%	79.0%		A

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：社会連携に基づく緩和ケア等の患者支援

※赤塗：コア指標

#	取り組むべき施策	アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
社会連携に基づく緩和ケア等の患者支援						
320201	【拠点病院等】都道府県がん診療連携協議会において、セカンドオピニオンを受けられる医療機関や、緩和ケア及び在宅医療等へのアクセスに関する情報提供の在り方について検討	あり方の検討段階のため、指標設定無し（着実に検討を進めること）				
320202	【拠点病院等】地域包括ケアシステムの仕組みも踏まえつつ、地域の実情に応じて、介護事業所や薬局等の地域の関係機関との連携や、社会的支援や困難事例等への対応に取り組む	専門医療機関連携画局（傷病の区分：がん）の認定数	141	207		A
320203	地域の関係者間の連携体制を構築することで、地域における課題の解決を促すため、拠点病院等を中心とした施設間の連携・調整を担う者の育成に、引き続き取り組む	地域緩和ケア連携調整員研修受講者数	57(累計1,335)	88(累計1,423)		A
320205	セカンドオピニオンに関する情報提供及び利用状況等の把握把握を行い、関係団体等と連携した適切な情報提供の在り方について検討	診療情報提供料（Ⅱ）の算定数（算定回数）	23,381	25,090		A
		診療情報提供料（Ⅱ）の算定数（患者数）	21,958	23,613		A

#	中間アウトカム	中間アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
320201	希望時にセカンドオピニオンを受けられる割合の向上	がん治療前に、セカンドオピニオンに関する話を受けたがん患者の割合	34.9%	31.7%		C
320202	療養場所に関する話し合いの普及	患者と医師間で最期の療養場所に関する話し合いがあった	35.7%	52.9%		A

#	分群別アウトカム	分群別アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
300006	望んだ場所で過ごせたがん患者の割合の増加	望んだ場所で過ごせたがん患者の割合	47.9%	60.2%		A
300007	在宅でなくなったがん患者の医療に対する満足度の向上	在宅でなくなったがん患者の医療に対する満足度	79.1%	85.5%		A

#	最終アウトカム	最終アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
000010	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに暮らしの質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	70.5%	79.0%		A

「第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル 確定版」：ライフステージに応じた療養環境への支援

※赤塗：コア指標

#	取り組むべき施策	アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
小児・AYA世代について						
341201	医療従事者と教育関係者との連携に努めるとともに、療養中に教育を必要とする患者が適切な教育を受けられることとなる環境の整備、就学・進学支援等の体制整備を行う。また、ICTを活用した遠隔教育について、課題等を明らかにするため、実態把握を行う	小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者の発育及び療養上の相談への対応・支援のうち、教育に関する相談件数	2,232	2,883		C
341202		国立がん研究センターによる「がん相談支援センター」相談員基礎研修」(10)の実施後、国立成育医療研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了し、小児がん拠点病院等に配置されている者の数	230	287		A
341203	成人診療科と連携した切れ目ない支援体制が、地域の実情に応じて構築できるよう、患者の健康管理の方法、地域における療養の在り方、再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制等の医療・支援の在り方について検討	小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会参加人数	250人（累計1,196人）	190人（累計1,610人）		C
341204		長期フォローアップ外来を開設している小児がん拠点病院等の数 ²	123	130		A
341205	小児・A・Y・A世代のがん経験者の就労における課題の克服に向けて、ハローワークや地域若者サポートステーション等を含む就労支援に関係する機関や患者団体と連携した取組を引き続き推進	小児がん拠点病院等のがん相談支援センターにおける、小児・AYA世代のがん患者に対する就労に関する相談件数	99	287		A
341206		小児がん拠点病院が連携している、小児がんに関する患者団体の数	78	130		A
	小児・A・Y・A世代のがん患者の療養環境の課題等について実態把握を行い、知事等からの緩和ケア提供体制や在宅療養環境等の体制整備について、関係省庁と連携して検討	あり方の検討の段階のため、指標設定無し（着実に検討を進めること）				

*1. 成人拠点におけるAYA世代のがん患者に係る相談件数も算出することを検討中（令和4年度では現況報告書に対応項目無し）
*2. 小児がん拠点病院と、小児がん連携病院の類型1を母数とする想定

#	取り組むべき施策	アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
高齢者について						
342101		当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所等の医療・介護従事者等と協力を得る体制整備や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援等について検討を行っている拠点病院等の割合	97.6%	100.0%		A
342102	【拠点病院等】地域の医療機関やかかりつけ医、在宅療養支援診療所、訪問看護事業所等の医療・介護を行う機関、関係団体、地方公共団体等と連携し、患者やその家族等の療養生活を支えるための体制を整備するとともに、地域における課題について検討	介護支援等連携指導料の算定数（がん患者に算定） （算定回数）	82,935	77,242		C
342103		介護支援等連携指導料の算定数（がん患者に算定） （患者数）	66,661	63,612		C
342104		退院時共同指導料1の算定数（がん患者に算定） （算定回数）	12,374	13,686		A
342105		退院時共同指導料1の算定数（がん患者に算定） （患者数）	12,053	13,390		A
	高齢のがん患者が抱える課題について実態把握を行い、長期療養の中で生じる有害事象などに対応できるよう、患者の健康管理の方法、地域における療養の在り方、再発・二次がん・併存疾患のフォローアップ体制等について検討	あり方・施策の検討段階のため、指標無し（着実に検討を進めること）				
342106	高齢のがん患者の、人生の最終段階における療養場所等の選択に関する意思決定を支援するための方策について検討	意思決定能力を含む機能評価を行い、各種ケアメニューに沿って、個別の状況を踏まえた対応をしている拠点病院等の割合	99.6%	100.0%		A

#	中間アウトカム	中間アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
341201	教育支援に関する医療スタッフからの説明の拡充	治療開始前に教育の支援等について医療スタッフから話があったと回答した人の割合	68.1%	-		D
341202	就学支援制度の利用拡大	がん治療のため転校・休学・退学したと回答した人のうち、患者の治療中に何らかの就学支援制度を利用したと回答した人の割合	75.9%	-		D
341203	がん治療と教育の両立	治療中に学校や教育関係者から治療と教育の両立に関する支援を受けた家族の割合	76.6%	-		D
341204	長期フォローアップの認知度向上	長期フォローアップについて知っている小児がん患者の割合	52.9%	-		D
341205	医療者側からの就労支援（説明）の拡充	治療開始前に、就労継続について説明を受けたがん患者の割合	54.9%	57.7%		A
341206	つらい症状への速やかな対応改善	つらい症状には速やかに対応してくれたと思ふと回答した人の割合	83.3%	-		D

*1. サブグループ解析は、連携調査の結果をも、75歳以上に限定して解析することと想定

#	最終アウトカム	最終アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
342201	家族の介護負担感の軽減	介護をしたことで、全体的に負担感が大きかったと回答した割合	41.6%	37.9%		A
342202	死亡場所で患者が受けた医療の満足・プロセスの改善	医師・看護師・介護職員など医療者同士の連携はよかったと回答した割合	79.1%	77.5%		C
342203	最後の療養場所の希望や医療に関する話し合いがあったと回答した割合	患者と医師間で最後の療養場所に関する話し合いがあったと回答した割合	32.9%	50.9%		A

#	分類別アウトカム	分類別アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
343001	家族への支援・サービス・場所の充実	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	47.7%	44.1%		C
343004	就学の継続	がん治療前に就学していた者のうち、「がん治療のために患者が転校・休学・退学したと回答した人」以外の割合	12.5%	52.0%		A

#	最終アウトカム	最終アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
344001	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	70.5%	79.0%		A